

Aみんな仲良く

## なぜ、人は SNSが好きなのか

～バカッターがいなくなる理由～

- ツイッターやフェイスブック、インスタグラムやYouTubeなど、様々なサービス。
- 共通しているのは、他の人から「いいね」という評価が与えられること。
- 「注目される」こと、イコール「存在意義を認められること」。

- ヤンチャな子の対応に気をとられ過ぎて、真面目な子が放置されていませんか？

真面目にやっているから大丈夫、と  
高を括っていると

「注目してもらえない」イコール  
「真面目であることに意味が無い」、  
やがて、

**「真面目であることを放棄」**  
することに、つながるかも。

Aみんな仲良く

## トラブル続きの関係。 その相手、実は「敵」ではない。

- 当然、話し合う(仲裁の場)は、**対立を煽るような席の配置**にしない。
- トラブル解決のための話し合いは、もっと『**場づくり**』に気を遣うべき。
- 仲介役の教師も含め、AさんBさん、目撃者のCさんなど、とにかく関係する子を
- **「わざとらしく、円く座らせる」**だけで、
- だいぶ対立が弱まります。

- **「円く座る理由」**を伝えるとさらに良いです。
- そして「この場に集まった人は、
- 現在進行中のトラブルを解決しようとしている人たちだ」と、前置きすると、かなり成功率が上がります。



トラブル解決は、  
歩み寄りが大切。

そもそも相手は  
「敵」ではない。

Aみんな仲良く

## 靴隠し、中傷落書き… 「同情ではなく〇〇をくれ」①

- 犯人は、級友かもしれないし、他のクラスの誰かかもしれない。対応は、どうすれば??
- まさか「全員目を閉じて。やった人は、正直に手を上げましょう…」なんて…。
- まずは子どもたちの「犯人捜し」を止めること。
- マイナス感情で盛り上がるのではなく「靴隠しをやられた人に寄り添って」プラスの感情を盛り上げたほうが、クラスとしては100倍いいはずです。

大切なポイントは4つ。

『罪を憎んで、人を憎まず』が基本です。

続きます→

ここで言うのは、担任として、  
「教室の、クラスの子どもに  
対する対応」です。

当然、いじめ対応では、  
大人が犯人捜しをすることが  
必要になるでしょう。  
みなさんなら、どうしますか？

Aみんな仲良く

## 靴隠し、中傷落書き… 「同情ではなく〇〇をくれ」②

### ①行為、そのものが卑怯である。

- クラスの共通認識を整える
- やられた人の『人格』や『ふだんの行い』は関係ない。
- 「いじめられる方も悪い」などという論点ずらしに巻き込まれないように注意。

### ②必要なのは『同情』ではなく『怒り』。

- 『かわいそう』には抑止効果が無いですが、『怒り』は抑止力を持ちます。

### ③怒りは敢えて「許さない」どまりで。

- 「卑怯なことは許さない」という宣言をする。それだけで「抑止力」「援護」の、二つの効果が見込める。

### ④一方で「どんな卑怯なことをした人でも、それなりの理由があるに違いない」と伝える。

- 大切なのは「『行為』は否定するが、『人格』は否定しない」という姿勢。
- 行為の理由＝被害者に対して思うところがあるならば、そちらを伝えるべきだ、と諭すことも大事。

# トラブルの未然防止や解決策で、大切なのは…



クラス全員が、良い方向に  
団結すること。(仲間を助ける、  
卑怯を許さない、など)



「行為」を否定し、「人格」を  
否定しない。

(そのために、この出来事に話を  
絞り、普段の行いや、性格など  
は考慮に入れない。)



責められる側にも、  
「落としどころ」としての  
逃げ道を用意しておく。

(更生への道すじを示す。)